

## 「令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について」

【富里北中学校】

令和3年5月27日（木）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

### 1 生徒が受けた調査について

「国語」、「数学」、「生徒に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

#### 教科に関する調査

- （１）①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等  
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

#### 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

※調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/21chousa/21chousa.htm>

### 2 本校生徒の調査結果

本校生徒の調査結果及び分析は以下のとおりです。

（１）教科の正答率について 〔※ 全国公立中学校の平均正答率（以下全国平均）との比較〕

|     |                                                                                                            |   |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| 国 語 | 学習指導要領に示されている3領域1事項（「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕）に基づいて、その全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題 | B |
| 数 学 | 学習指導要領第2章第3節数学における、「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題                                          | B |

☆ 全国平均正答率との比較について

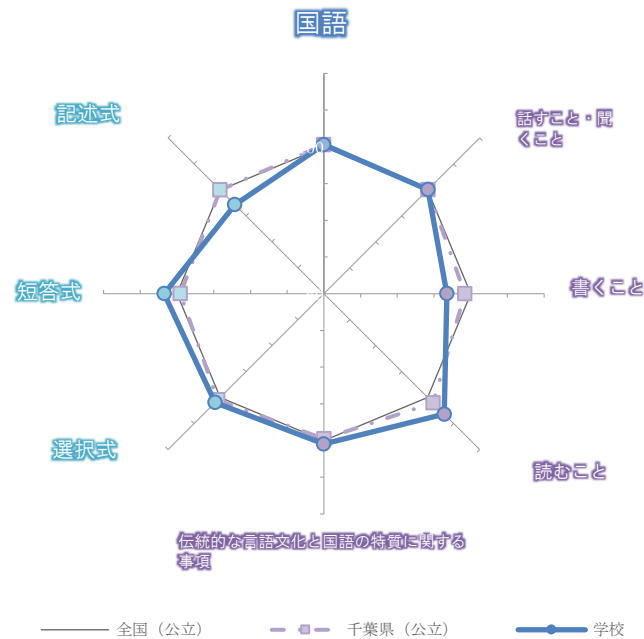
A：＋5.0％より上回っている場合「良好」

B：＋5.0％～－5.0の場合「ほぼ同じ」

C：－5.0％より下回っている場合「要改善」

## (2) 教科ごとの分析

### 国 語



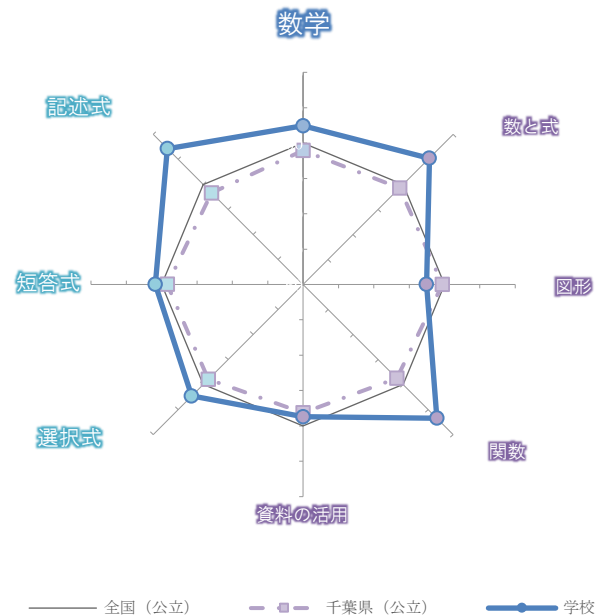
#### 【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率がほぼ同じです。
- 「記述式」の問題について、全国平均と比較して正答率が少し下回っています。
- 「話すこと・聞くこと」について、話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える問題では、全国平均と同じでした。何についてどのような目的で話し合っているのか、ゴールを意識した話し合い活動を続けていく必要があります。
- 「書くこと」について、書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える問題では、全国平均を少し下回りました。
- 「読むこと」について、登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する問題では、全国平均を上回りました。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について、相手や場に応じて敬語を適切に使う問題では、全国平均と同じでした。

#### 【改善方策等】

- 話題や展開を捉えながら話し合うために、話合いのやり取りを踏まえ、どのような発言が望ましいか、話題を意識しながらその経過を捉えて話したり聞いたりするように指導していく必要があります。
- 書いた文章を互いに読み合う際には、読み手からの助言を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見いだすことが大切です。読み手は具体的な部分や事柄を捉えて助言すること、書き手は自分の文章が他者にどう読まれるかを自覚し、次の自分の書く活動へ生かす具体的な視点を得るように指導していく必要があります。今後も、引き続き学校で丁寧に指導してまいります。
- 文章を読む際には、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結び付けたりすることによって、場面や描写に新たな意味付けを行うように指導していく必要があります。
- 言葉遣いについては、敬語を含め広く相手や場に応じた言葉遣い全般について指導をしていく必要があります。自分の発信した情報がどう受け止められるかを想像したり、相手の状況や媒体の特性などを考慮したりして書くようにしていく必要があります。

## 数 学



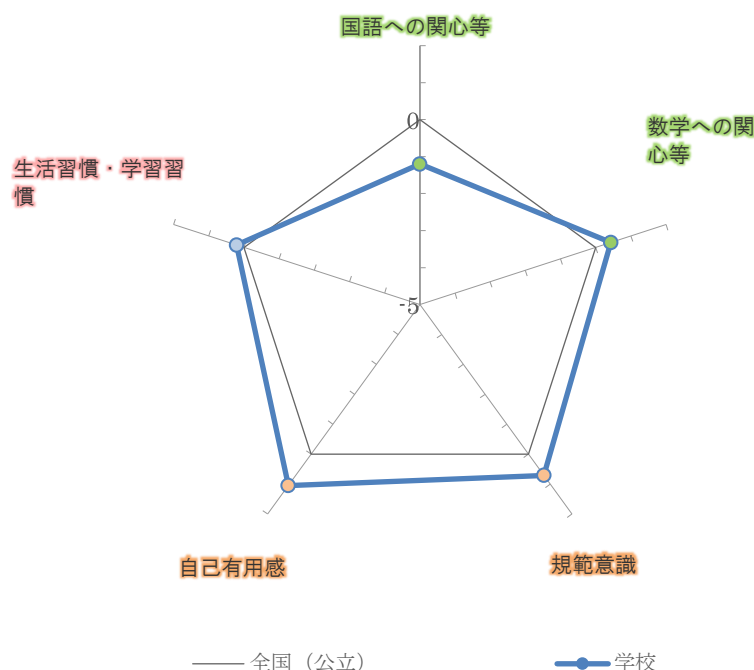
### 【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率が上回っています。
- 「記述式」の問題について、全国平均と比較して正答率が大きく上回っています。
- 「数と式」の文字を用いた式の計算問題では、全国平均を上回りました。正負の数の四則演算と分配法則の特徴の理解が進んでいます。
- 「図形」の問題では、全国平均を下回りました。平行四辺形になるための条件、錯覚が等しくなるための2直線の位置関係の理解に関する問題などに課題があります。
- 「関数」の問題では、全国平均を大きく上回りました。
- 「資料の活用」の問題では、全国平均を少し上回りました。データの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することを、続けて練習する必要があります。

### 【改善方策等】

- 「数と式」において、数量に関する基本的な技能の向上を図るため、練習問題を解く活動をさらに充実させてまいります。また、「一問一答」による問題にとどまらず、「問題の数値が変更すると答えがどのように変化するか」等を考える学習も充実させてまいります。
- 「図形」において、図形の構成要素に着目するなどして、常に成り立つ事柄を見だし、それを数学的に表現する活動を充実させてまいります。
- 「関数」において、問題解決の方法や判断の理由について、数学的な表現を用いて説明することができるよう、解決までの筋道を丁寧に確認するとともに、互いに説明し合ったりノートに表現したりする記述に関する指導を更に充実させてまいります。
- 「資料の活用」において、その問題の解決のために収集したデータの傾向を適切に捉えられるよう、数学的な表現を用いて判断の理由を説明するなど考え方に目を向ける活動を充実させ、論理的に推論し表現する能力の向上に努めます。

### (3) 生徒質問紙の結果及び分析



#### 【特徴と現状】

- 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について」家の人と約束したことを守っている生徒は全国を下回りました。又、1日当たりのICT機器の勉強での使用時間は全国を上回っているものの、勉強の役に立つと思う生徒数は少ない傾向にあります。
- 学校での話し合い活動で、友達の意見を最後まで聞くことができたり、自分の考えを深めたり広げたりすることができる生徒の割合は、全国平均を大きく上回っています。道徳や学級会での話し合い活動が充実できている点が見られます。半面、友達と協力するのは楽しいと思う生徒の割合は、全国平均を下回っています。
- 「学校での学習を除いた平日の学習時間」で、総じて全国平均を上回っており、勉強時間を確保している生徒は多いことがわかります。

### 3 まとめ

全体的に学力を向上させていくことが求められます。特に、自分の思いや考え等を記述することに課題が見られます。「答えを出すこと」とどまった指導ではなく、そのプロセスを重視した学習活動を充実させていく必要があります。

正答率が高い生徒は、以下の質問において肯定的な回答が見られました。

- ・「朝食を毎日食べている」
- ・「家で自分で計画を立てて勉強をしている」
- ・「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする学習に参加している」
- ・「友達と協力するのは楽しいと思う」

家庭での生活・学習習慣、学校での主体的な学習態度が学力に影響を与えることが明らかとなりました。特に、スマートフォンやコンピュータの使い方については、しっかりした約束を設け、子どもたちもそれを守りながら生活していく姿勢が望まれます。家庭と学校がそれぞれの役割を果たし、子どもたちの学力向上を図っていくことが求められます。引き続き、各ご家庭でのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。